

当院の新人教育について

～自身の経験を踏まえて～

◎平野 康智¹⁾岐阜県総合医療センター 病理部¹⁾

働き方改革により、ここ数年で残業時間の削減や柔軟な働き方、労働生産性の向上に向けた取組みが強化され、労働環境が急速に変化している。

社会情勢では新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により、人と接触する機会が減少することで、若者を含めた社会全体における孤独・孤立の問題が一層顕在化している。その一方で ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方に基づいた教育によって、若者の社会貢献への意識も醸成されつつある。コミュニケーションにおいても大きな変化が見られ、特に 10～20 代では他者とのコミュニケーションに SNS を長時間利用しており、情報収集・発信だけでなく、新たな出会いや交流等の幅広い用途で活用しており、彼らの日常的なコミュニケーションであるとされている。若者の意識としては、イベントや体験では参加者同士の一体感やその場・その時しか得られないといった非再現性を重視すること、チャンスと感じたら逃したくないという意識が高いということ、自分の考えを相手に伝えることが苦手、今の自分を変えたいといった意識があるとされている。このように様々な社会環境の変化を受けて、若者のコミュニケーションや意識が変わりつつあることがうかがえる。(消費者庁：若者を取り巻く環境と意識の変化より)

臨床検査技師を取り巻く環境においては、臨地実習ガイドラインが新しくなり 7 単位から 12 単位に増加すること、さらに実習内容については高度・専門化・多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、臨床現場における実践を通じて、施設内のチームの役割と実施内容を理解することを必修化するとともに、臨床参加型実習の観点から、学生に必ず実施させる行為、及び必ず見学させる行為と実施させることが望ましい行為が規定され、より臨地実習が実質的になった。その他、近年臨床検査室では ISO15189 の導入が盛んに行われており、これらは「品質マネジメントシステムの要求事項」と「臨床検査室が請け負う臨床検査の種類に応じた技術能力に関する要求事項」の 2 つから構成される。要求事項の中にスキルマップ作成など、教育に関する事項がある。全員が自分の仕事の責任を確認できるようにする必要があり、責任の明確化が義務付けられており、教育の重要性が益々高まっている。

このように大きく人々の意識や環境が変わりつつある状況下で、新規入職する職員や病院実習に来る学生等に適切な教育を施すため、我々現職員が時代にあった教育を考える必要がある。今回、当施設の新入職員や実習生の教育方針、現状、今後の課題について自身の経験を踏まえ紹介する。

岐阜県総合医療センター 病理部 TEL：058-246-1111 内線 2615